

沿岸定線観測速報 ちば (2005 年 6 月)

発行機関：千葉県水産総合研究センター

概況 (図1・2,表1)

6/5～6/7 に房総丸(110ト)で沿岸定線観測を実施した。親潮系水の南下状況を把握するためにK1～K5の5定点を追加して観測した(図1)。6/7の海況は図2のとおり。観測時における黒潮の離岸距離は表1のとおり。今回の結果は、茨城県水産試験場が実施した観測結果も加えている。

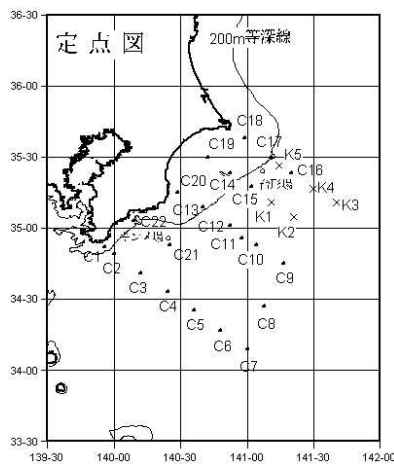


図1 定点位置

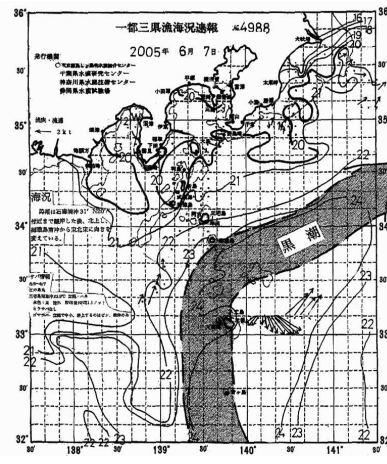


図2 6月7日の一都三県漁海況速報

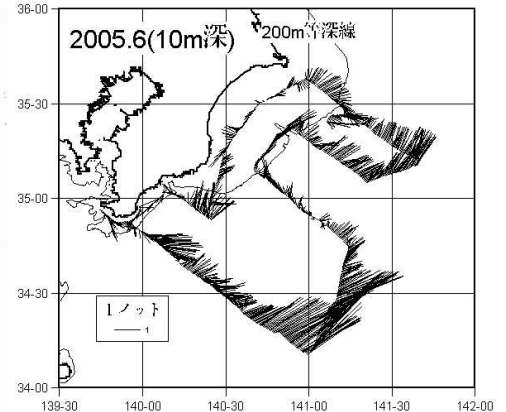


図3 流況(水深10m)

表1 房総沖の黒潮離岸距離(2005年6月)

基点・方向	距離(マイル)	階級
野島埼・南東	70	やや離岸
太東岬・南東	(70)	—
犬吠埼・南東	(60)	平年並

*(数字)は海洋速報(海上保安庁海洋情報部)より

表2 水温の評価(2005年6月)

水深(m)	外房海域			銚子・九十九里海域		
	水温	平年偏差	評価	水温	平年偏差	評価
0	20.3	-1.1	やや低め	20.5	0.4	平年並
50	17.16	-0.82	平年並	17.04	-0.54	平年並
100	15.81	-0.54	平年並	14.58	-0.56	平年並
200	12.03	-1.22	やや低め	11.63	-1.06	平年並

*水温は各海域の評価点の平均値

流況(図2・3)

2ノット以上の流れは、野島埼及び太東岬南東方 60 マイル以上の沖合域と犬吠埼南東方 50 マイル付近において観測された。

水温(表2,図4・5)

先月は「平年並」～「やや高め」であったが、外房海域では「やや低め」～「平年並」、銚子・九十九里海域では「平年並」であった。外房海域では黒潮が離岸していたため、水温が低かったと考えられる。犬吠埼沖の水温フロント(水温の変化が大きいところ)は、水深が深くなるにしたがって、南側に位置していた。

塩分(図4・5)

先月は海面～200m 深にかけて 34.6～34.8 であったが、今月は 33.4～34.7 で低塩分が銚子・九十九里海域における沿岸 20 マイル内の海域を中心に観測された。5月下旬からしばしば降雨があり、河川水の流入により、低塩分になったと考えられる。犬吠埼沖には水温と同様にフロントがみられ、水深が深くなるにしたがって、南側に位置していた。犬吠埼南東定線と横芝南東定線には 34.2 以下の低塩分がみられ、親潮系水が差し込んでいたと考えられる。

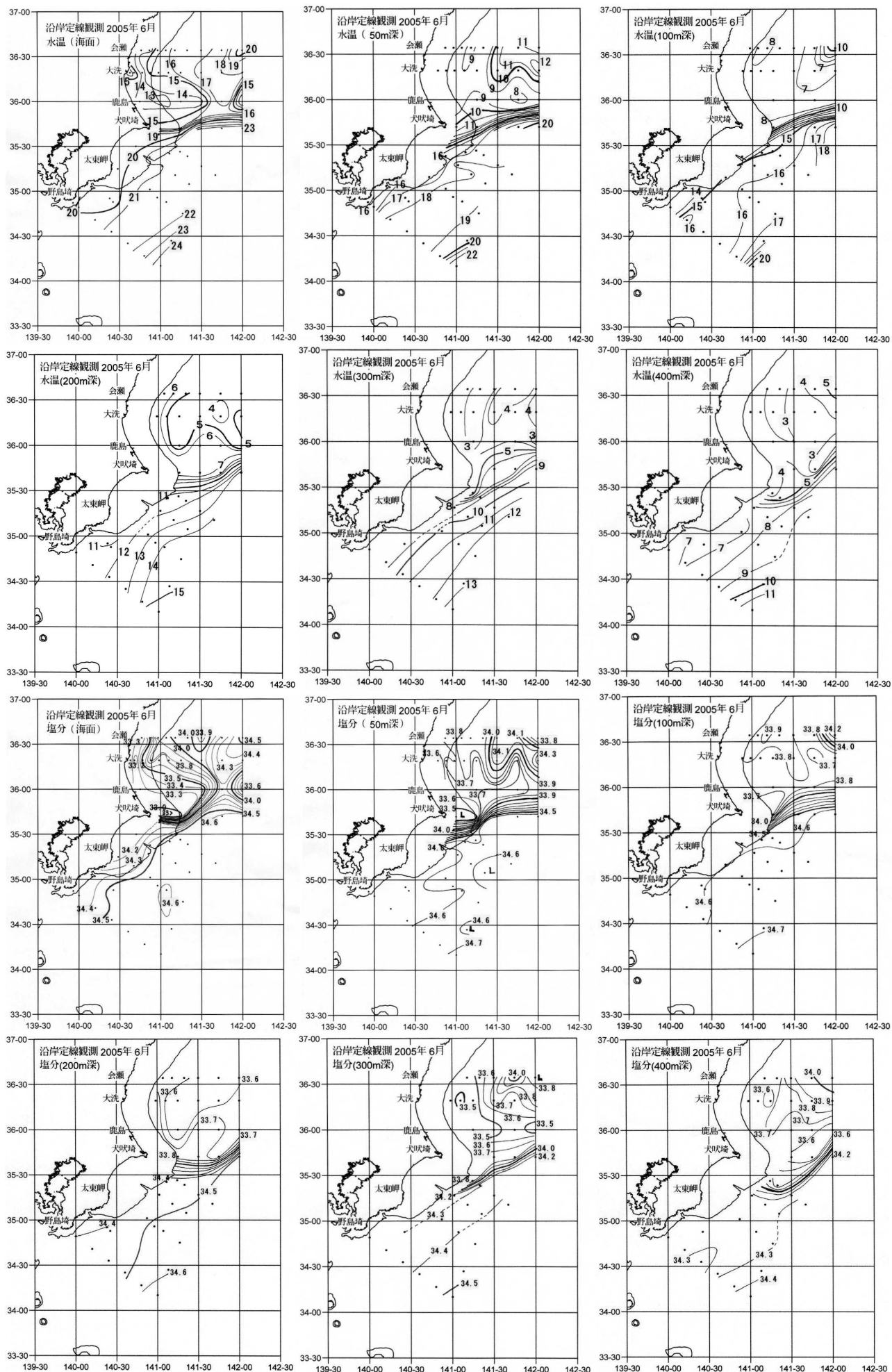


図4 水温と塩分の水平分布

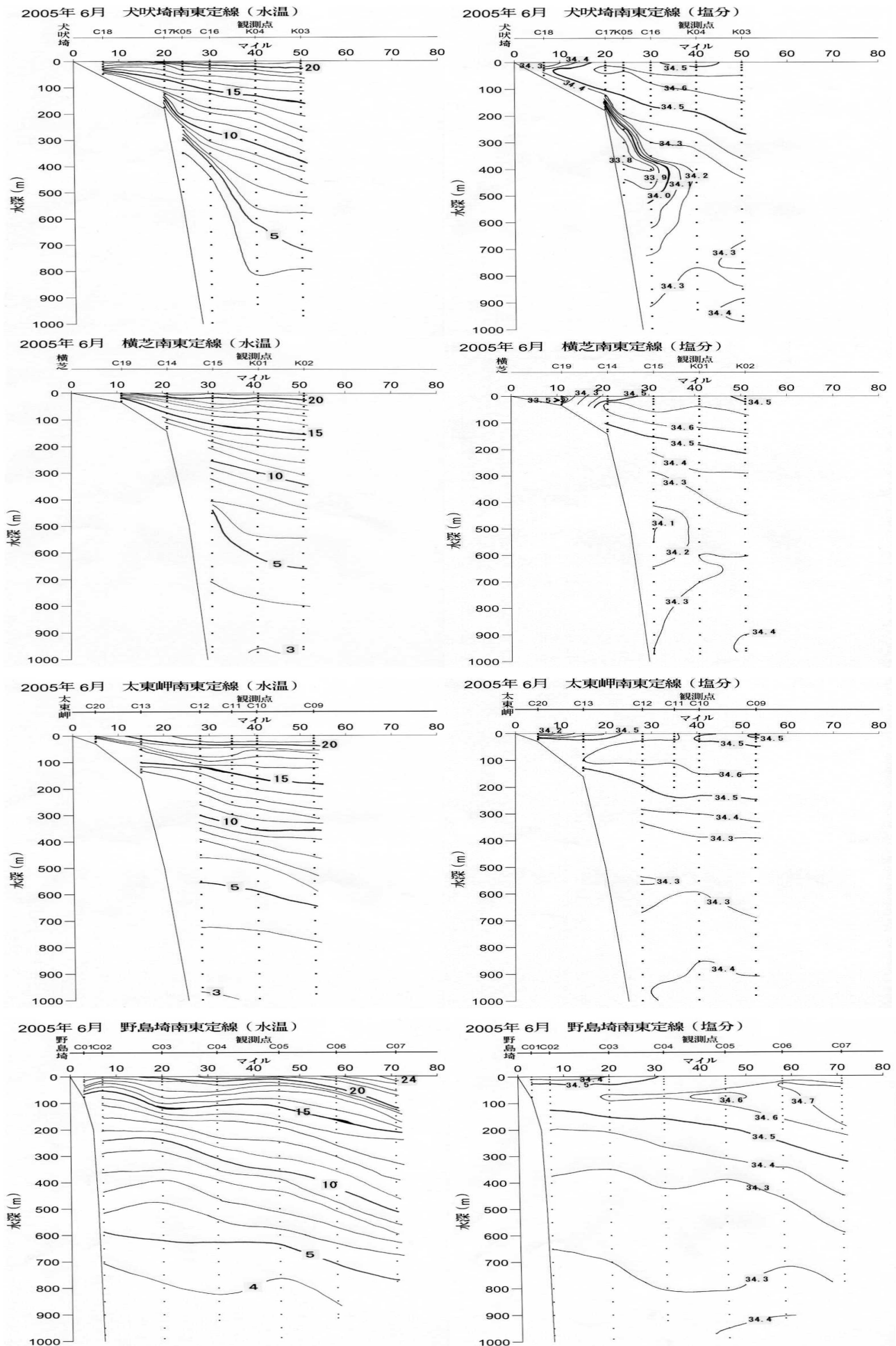


図5 水温と塩分の鉛直断面図